

校名：北海道教育大学附属札幌小学校

所在地：〒002-8075 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番10号

記載日： 28年 5月20日 記載者：千葉一博 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

平成元年に新築落成した現校舎は、195万人の人口を擁する札幌市街の北東「あいの里」に位置し、石狩市・当別町に隣接する田園地帯にある。校舎の北側には雄大な石狩川が流れ、周りは緑豊かなあいの里の緑道に囲まれており、豊かな自然環境の中にあることが特長である。北海道教育大学札幌校および附属札幌中学校と同一キャンパス内にあり、その利を生かし、大学・中学と連携した教育、研究活動を盛んに行っている。また、今年度開校130周年を迎え、多くの同窓生に参加いただく中、記念式典を終えることができた。卒業式の歌が今も「仰げば尊し」と「蛍の光」であるなど、その歴史ある伝統や文化を大切にしている校風がある。



学校教育目標は「共生の文化を創造する学校」。共に生きる「人・もの・こと」の存在に目を向け、そこからの学びを通して高め合うことを目標とした授業や行事などのあり方を研究している。そのため、児童はもちろん、教職員、保護者、三者が温かな人間関係で結ばれている。児童はどの学年の子どもも自分の見方や考え方をしっかりともち、積極的に学ぶ子どもが大変多い。その様子を研究会等の授業公開の場で他校の方に観ていただいている。



貴校の卒業生の状況について：

- ①本校を卒業し附属中学校に進学した児童については、どの高校に進学したかを抑えている
- ②その後については、10年前の120周年時に作成した同窓会名簿が存在しており、昭和2年から平成19年度までの卒業生の住所などの個人情報を抑えている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍について：

- ①本校の教職員は、札幌市教育委員会との人事交流で配置されている。札幌市教育委員会の教職員は全員が履歴書を持ち、委員会と勤務校で保管をしているので、それを見ることによって現在の所属を確認することが出来る。
- ②退職後についても、「附属を語る会」という教職員OB会があり、毎年一度懇親会を開催している。その案内を出す際にOBの個人情報を更新し把握している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

①文部科学省教育研究開発事業「小学校英語科」

研究開発校小学校における英語教科化への準備として、小学校英語の教育課程・指導法・教材の開発及び、中学校における英語教育の在り方についての研究を、本学の他附属小中学校、大学教員が連携し行っている。具体的には、小学校各学年の評価基準である「Can-Do リスト」、ICTを活用した蓄積型発展教材「スノーマン」がある。



< 2年生での授業 >

②グローバルマインド育成を目指した小中一貫教育課程の開発



附属札幌小学校・中学校では、グローバルマインド育成を目指した小中一貫教育課程の開発を進めている。食育・環境・防災を窓とした「自然」との関わり、教科指導やインクルーシブ教育を窓とした「人」との関わり…その中で思考力やコミュニケーション力といった、他者と共に生きるための態度や技能の育成を図ることをねらう。

日常的に小中の教員が一同に会して合同研究を行い、研究を深めている。

③実習オリエンテーション

札幌では8月から9月にかけて行われる教育実習。本学では、附属札幌小を含め札幌市内に実習に出る学生全員のオリエンテーションを行っている。講義型のオリエンテーションにはせず、学生がグループで指導案を作成し、本校の教職員が作った同じ場面の指導案の授業を参観する。それらを基に授業作りについて学ぶという形式である。大学の担当教官と密に連携することで可能となっている。



< 実習生による指導案作成 >

④教育研究大会の開催



毎年7月に教育研究大会を開催している。札幌市内道内、全国より述べ1000名を超える参会者の中、授業を公開し、より良い授業のあり方を追究している。

現研究主題は「想創の学びを築く学校」。子どもたちが生きる未来社会で欠かせないのは、未知の出来事に対し時に発揮される「創造力」と、自分のイメージを膨らませたり広げたりする「創造力」であると捉え、両者の育成を図るための授業・教育活動について研究を深めている。

今年度は2日間で29本の授業を公開するとともに、研究を評価していただくパネルディスカッションを行った。また、運営は、保護者の力を全面的に借りて行っている。学校と保護者が一体となって教育を進める共生の文化の一つと考える。

⑤ホールコンサート（Fステーション）



<合唱の披露・鑑賞>

玄関を入ったところにある1階から3階まで吹き抜けになっている「ホール」と呼ばれる場所で、児童委員会主催のコンサートを定期的に行っている。歌、演奏、踊りなど子どもたちが、そこで自分を表現する。そして、他の児童がそれを見守る。

共生の文化創造の一つとして大切に取り組んでいる。

⑥リバーサイドウォーキング

6月に行われる全校遠足。本校の特徴は、その距離にある。1年生でも8km、6年生では、22kmという長距離を歩く。ゴールは学校で、発達段階に合わせたスタート地点から豊平川・石狩川の堤防をみんなで歩く。土曜日開催なので保護者も参加し、児童を見守ると共に健康増進の機会にもなっている。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

○7月に2日間行う研究大会には、札幌市公立学校から多くの先生方が参加をしてくださる。また、本校の教職員は、他公立校への授業協力、研究助言として多くの依頼があったり、外部民間研究団体の要職を占めたりしている。そのような点からも教育研究のリーダー的役割を担っていると言える。

○教育大学附属学校として、のべ数百人の学生に対して教育実習を行っている。3年生が行う3～5週間の主免実習を中心に、大学1年生への基礎実習、教職大学院生への俯瞰実習、教員採用直前実習など種類、内容也多岐に渡っている。また、本学に限らず札幌市内の他大学の学生も、研究大会に多く参加して学ぶなど、「未来の同僚」への学習機会をつくる存在である。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○学習指導要領改定へ向けて、多くの小学校で真摯に授業研究が為されている今、どのような授業をどのように研究していくのかを先導的に示すことは附属学校の大切な役割であると考え。専門的な大学教員と連携していること、様々な情報を早く多く取り入れることが出来る附属学校だからこそそれができると考える。附属学校の意義として欠かせない視点である。

○先にも書いたが、本校の実習のシステムは非常に実践的であると言える。教師としての本物の資質を持った学生を育てるためにも、このシステムは継続していく必要があると考える。

○大学との連携においては、小学校側から見るとすぐ傍に「様々な分野の専門家」がいるという利点があり、大学側からすると様々な研究を行ったり、初等教育を間近に学んだりすることができる利点がある。理論と実践が一体となった教育研究ができるということは、附属学校ならではの、大きな存在意義であると考え。